

スーパースマイル

2018年（平成30年）新春号（vol.92-2）くしま矯正歯科通信

545-0011 大阪市阿倍野区昭和町1-21-22 徳山ビル4F

TEL 06-6628-8148 FAX 06-6627-0878

くしま矯正歯科



今年2月に平昌で冬のオリンピックが開催されます。テレビを見ていると女子フィギュアでは宮原知子選手と坂本花織選手が代表になりました。

私は仕事柄 彼女らが二人とも歯科矯正治療中（宮原さんは最近装置を外し保定中だと思います）のことに関心を持ちました。

どういうきっかけで矯正を始めたのかは知りませんが 体のバランスが特に大事な競技ですので、しっかりと噛めるようにかみ合わせを大事にしているのかなあとと思います。

ところでこの3月で当院も開業37年目に入ります。私は36歳で大学病院を辞し開業医として約35年以上様々な経験を積んできました。嬉しいこともあれば困った事柄に対面したこともいくつかありましたが、なんとか大きな病気にかかることもなくずっと診療をしてこられたのも、患者様はもちろんスタッフ、友人、家族のおかげと感謝しています。

感謝を表す言葉と言えば普通“ありがとう”と言いますね。最近聞いたことですが、“ありがとう”の反対語は何でしょうか？“当たり前”だそうです。

今 私達は本当にありがたい国、ありがたい時代に生きています。

日本は北海道から沖縄まで気候も様々で、それぞれ四季も楽しめます。経済的にも発展しています。国民のほとんどが勤勉な性格で働き者です。世界中のあちこちで発生しているテロや戦争の危険性からは一見離れて平和のように見えます。生まれるのがもう数年早ければ戦争に巻き込まれたかもしれませんし、生まれた国が貧困な、あるいは暴動の絶えないような国なら生活は安定しません。

我々の分野で言えば良質な歯科治療は受けられないでしょうし、まして命と直接かかわらない矯正歯科などは考えられないことでしょう。働く意欲があれば



なんとか生活もできます。この時代にこの国にうまれたことは“当たり前”ではなく、本当に“ありがたいこと”と感謝したいものですね。

当院ではこの4月から院長が現副院長の久島和彦に変わることになりました。

息子が親の後を引き継いでしてくれることは“当たり前”ではない時代です。ましてなにかと厳しい歯科医院です。長期にわたる矯正患者様たちのためにも“ありがとう”です。院長は交代しますが 私は従来通り患者様の治療は行います。

最近の私にとってのビックニュースは5年間にわたりまとめてきた症例が、この春 アメリカの clinical dysmorphology（臨床形態異常学）という学術雑誌に載ることになったことです。5年前に日本矯正歯科学会で展示し、その後 世界で最も権威のある IADR という歯科医学全体の学会でも発表した症例です。

矯正歯科を扱う有人の歯科医師から“ぜひ論文にしてください”と言われておりましたが ようやくこの clinical dysmorphology の編集者から“大変価値のある症例だから載せる”という嬉しい連絡をもらいました。矯正科の医局の後輩で解剖学教室にもいた加藤穰慈先生と久島和彦先生との3人の名前で載る予定です。もちろん患者様およびご両親から掲載のご了解をいただいています。

OFCD と呼ばれるこの症状は世界でもまだ30症例くらいしか報告がなく、犬歯の歯根が普通の2倍程度の長さに伸びる事が特徴の珍しい病気で、歯と目、顔、心臓などに特徴を示す病気です。

従来は「成人の患者で“犬歯が長い”ことからこの病名と診断した」という報告がいくつか見られましたが、我々のように子供のころから歯根が徐々に伸びていく過程を30年間にわたりしっかり記録したものはなく、歯根が異常に長くなる原因を考える上で貴重な症例であり、価値があると判断されたのだと思います。

今年もスタッフ一同よろしく願いいたします。

